風景の中で 5

越境の夢

図書館長　井上 郷子

この原稿を書いているのは4月も終盤、空高く鳥の声、路傍にはカタバミやカラスノエンドウの可憐な花。自然はなんてしなやかで力強いのだろうと感じ入ります。3月初頭に開いたリサイタルが、もはや遠い過去の、異次元の場所での出来事のような気がします。篭ることを余儀なくされる生活は人生の中でもそう滅多にあることではないでしょうが、自分自身に心を開き、普段は頭や心を通り過ぎてしまうことに目を向ける良いチャンスでもあります。他者に出会うためにはまず自分自身と向き合うこと・・・昭和時代の歌人で劇作家、寺山修司は、かつて「書を捨てよ、町へ出よう」と叫びましたが、今は「書を手に、家にいよう」といったところでしょうか。

先日『越境の夢（Dreams of Trespass）』を読了。モロッコの著名な社会学者で作家、フェミニストのファティマ・メルニーシー（Fatima Mernisi 1940-2015）の著作（日本語版は『ハーレムの少女ファティマ～モロッコの古都フェズに生まれて』*）で、フェズの名家のハーレムで生まれ育った著者が、自身の幼年時代を回想し、ハーレムに生きる女性たちとその日常を描いた自伝的フィクションという体裁の本です。ここにはメルニーシー家のハーレムで暮らす様々な親族の女性が登場しますが、彼女らに向ける幼い少女ファティマの澄んだ視線は何とも温かいのです。

「ハーレム」は女性や子供たちの居住空間で、親族以外の男性にとって不可侵の領域という意味を含み、またモロッコには「ファティマ」という名前の女性は多いといいます。メルニーシーは長じて欧米で学び、母国モロッコの大学で教鞭を執るようになりますが、この本の中で生き生きと描かれる女性たちと彼女らをめぐるエピソードには、社会学者となった著者がインタヴューをした多くのモロッコ女性の生が織り込まれている、つまり、自伝的フィクションの体裁をとりながらも、主人公「ファティマ」には無数のモロッコ女性が重ねられているのです。

かつての閉ざされた世界の中で、女性たちが知恵を絞り、力を合わせ、時には男性を出しぬいて生きる姿は、切なくも時にお茶目で、それは決して西洋的ではありませんが間違いなく「抵抗の姿」です。彼女たちから「越境の夢」を託されたフェミニスト知識人、メルニーシーの原点であったことでしょう。

*当館未所蔵ですが、TAC加盟館に所蔵があります。

資料の部屋 5

箏の可能性を求めて

図書館員　宮部 真砂子

LEOこと今野玲央は、現在、東京藝術大学音楽学部邦楽科箏曲（現代箏曲）専攻在学中。箏との出会いは、9歳の時、横浜インターナショナルスクールでの音楽の授業（邦楽プログラム）であったという。

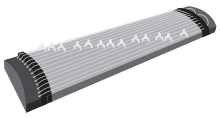
さて、今回のカバーアルバムに収録されている曲は全5曲。≪風のとおり道≫≪星に願いを≫≪虹の彼方へ≫については、それぞれ、ジブリ映画（「となりのトトロ」）、ディズニー映画（「ピノキオ」）、ミュージカル映画（「オズの魔法使い」）を象徴する名曲で、誰もが知っているスタンダードナンバーである。たいへん手堅い選曲といえるし、全く違和感のない演奏となっている。また、≪虹の彼方へ≫はこのアルバム唯一のソロ曲である。

あとの2曲では、かなり印象が変化する。≪スペイン≫はジャズ・フュージョンの旗手チック・コリアが、彼のバンド「リターン・トゥ・フォーエヴァー」の作品として発表した代表作で、イントロはロドリーゴ作曲の≪アランフェス協奏曲≫アダージョからゆったりと始まるが、一転してアップテンポに変じていく乗りの良い曲で、これまで様々な演奏家にカバーされている。三味線の本條秀慈郎が協演している。

≪千のナイフ≫は、坂本龍一がYMOを結成する前に発表したデビューアルバムに収録された曲である。原曲は電子音楽であり、この曲をどう料理したのか特に興味をひかれたのだが「9面の、エフェクトをかけた別調絃箏を用いての多重録音」は、なかなかに面白い試みであると感じた。「この曲が当時電子音楽の可能性を広げたように、本アルバムにおいてのこの曲はある意味箏の可能性を広げる作品になったのではないかと思っている」とLEOは記している。この曲をアルバム第1曲目に配置した事からも、その意気込みを感じ取る事が出来るのではないだろうか。

LEOは、2019年「第29回出光音楽賞」を受賞。今後の新たな挑戦に大いに期待したい。

「Re born / Leo」Columbia 2019
請求番号●XD76034



みやべ　まさこ　●　≪スペイン≫は「ライト・アズ・ア・フェザー」に収録されています。請求番号●XD45385